

第 37 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 6 年 7 月 2 日 (火) 午後 3 時～午後 5 時		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 北棟 6 階 602 会議室		
出席者	委員	大方会長、浜田副会長、伊藤委員、岡澤委員、岡田委員、梶木委員、國原委員、栗本委員、栗原委員、櫻井委員、島委員、田中委員、辻中委員、山下委員、谷口委員、重松委員 【計 16 人出席】	
	事務局	【子ども未来部】 小澤子ども未来部長、野儀子ども未来部理事、保田子ども未来部次長、阪口子ども未来部参事、松田子ども政策課長、片岡保育総務課長、岡本保育所・幼稚園課長、中村子ども育成課長、穴尾子育て相談課長、浦一時保護課長、田村子ども支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 土田教育政策課長、原田地域教育課長、川口学校教育課長補佐 【福祉部】 藤原福祉政策課長補佐	
開催形態	公開 (傍聴人：0 名)	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題 又は 案件	【報告案件】 (1) 令和 6 年度奈良市子ども会議について (2) 第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 【審議案件】 (1) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画の策定について		
決定又は取り 纏め事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度奈良市子ども会議について、資料を提示しご意見いただいた。 ・第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、資料を提示しご意見いただいた。 ・第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画の策定について、資料を提示しご意見いただいた。 		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
【報告案件】 (1) 令和 6 年度奈良市子ども会議について <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、子どもたちの話し合いたい議題を引き出したのが良いと意見があった。 ・委員より、大学生サポーターの応募が大きく増加した理由と工夫した内容、そして子ども会議参加者の 0B・0G の申込の有無について質問があった。 			

・事務局より、市内の大学との連携システムの利活用や各大学の周知協力による成果であることと、現時点でOB・OGの申込はないが、参加者のリピーター申込があると回答した。

・委員より、貧困問題を抱える子どもの応募の可能性について質問があった。

・事務局より、フードバンク事業のLINEアカウントからも周知していると回答した。

・委員より、子どもたちの提案した意見が、市政に対してどのような影響を与えたかわかるフィードバックをしているかについて質問があった。

・事務局より、すぐに具現化した内容もあるが、時間がかかるものもあるため、過去の実績を一覧にして市ホームページに概要を公表する手続きをしていると回答した。

(2) 第二期奈良市子供子育て支援事業計画の進捗状況について

・委員より、担当課評価の改善で実用的になったため、さらに伝わり方も検討するとよいという意見と、妊婦の健康診査事業やこんにちは赤ちゃん訪問の実績値の減少要因について質問があった。

・事務局より、奈良市に妊娠届を出した方が減少傾向である回答した。

・委員より、待機児童の人数と待機が多い年齢区分についてと、バンビーホームの入所受入の状況について質問があった。

・事務局より、令和5年度の待機児童数が16名、令和6年度が23名であり、特に1歳児の待機児童数が多いこと、またバンビーホームは申請者全員が入所できているが、指導員の確保に努めていく必要があると回答した。

・委員より、子ども医療費助成の資格証の配布時期について質問があった

・事務局より、配布時期の定めはないが、手続き上のスケジュールによるため、周知徹底に努めると回答した。

・委員より、ファミリーサポート事業について、計画値と実績値が乖離している課題と、当日申込及び利用の可否について質問があった

・事務局より、数値の乖離は新型コロナの影響もあるが、援助会員と依頼会員の地域偏在や援助会員の増員が課題であることと、相互援助の趣旨から事前登録の必要があると回答した。

・委員より、日頃の周知が十分に必要であると意見があった。

【審議案件】

(1) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画の策定について

・委員より、総合的な計画とすることで、子どもの貧困対策が弱体化されないよう、KPIを活用した実効性のあるものにして欲しいと意見があった。

・委員より、将来的な問題に対する取組の検討についてどう考えるかと質問があった。

・事務局より、ニーズ調査から確認できることや今後のパブリックコメント、また計画期間の途中での見直し等を通じて検討していくと回答した。

・委員より、人口減少の要因分析が大事で、どういった視点で事業をするか考え、ニーズに合っているか見ていくべきと意見があった。

・委員より、若者支援の項目について対象年齢について質問があり、かつ色々な課で連携して支援して欲しいと意見があった。

・事務局より、若者の主な対象年齢は高校卒業年代以降であるが、事業によっては中学校卒業後から対応するため、概ね15歳から39歳が対象と回答した。

・委員より、介護や看護の現場で様々な支援の情報が不足しているため、周知方法を見直しながら取り組んで欲しいと意見があった。

・委員より、計画策定後の周知拡大が大切であると意見があった。

・委員より、ヤングケアラーの支援のように多領域が関わる課題について、組織に横串をさす取組や計画が大事であるが、どう考えるか質問があった。

・事務局より、市長をトップとして各部長級職員が出席する子ども・子育て支援推進本部などで、部をまたいで検討していくと回答した。

・委員より、重層的支援体制や地域福祉計画などどのように関係しているか見せることで、対外的にも内部的にもよりわかりやすくなると意見があった。

・事務局より、計画の相関図を分かりやすく表記し、法改正による対象年齢の拡大についても、多機関で連携していくと回答した。

・委員より、共同親権や外国籍、ギフトドなどの新しい問題もあり、貧困についても、対策だけでなく継続的な支援として検討して欲しいと意見があった。

・委員より、若者や子どもへのパブリックコメントについて工夫が必要と意見があった。

・委員より、変化が大きい中であるが、男性の家事育児参画などを軸にした視点も引き続き必要と意見があった。

資料	<p>【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿</p> <p>【資料2-1】令和6年度「奈良市子ども会議」について</p> <p>【資料2-2】令和6年度子ども会議参加者募集チラシ</p> <p>【資料3-1】第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画 令和5年度進捗状況一覧</p> <p>【資料3-2】第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画 令和5年度進捗状況について</p> <p>【資料4-1】第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>【資料4-2】第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画の骨子案</p> <p>【別添】奈良市子育てに関するニーズ調査結果報告書 なら子育て情報ブック 2024年版</p>
----	---